

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京医科大学
設置者名	学校法人東京医科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
医学部	医学科	夜・通信			46	46	19	
	看護学科	夜・通信			84	84	19	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>■医学部医学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/med/media/docs/2019_igakuka_jitsumu.pdf ■医学部看護学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/media/docs/2144c60f6a91d7fbad17228a4fc30331aee1964b.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京医科大学
設置者名	学校法人東京医科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/officers.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常 勤	証券会社取締役社長・ 監査役等	2019.7.1～ 2022.6.30	財務・企画
非常勤	公認会計士・会社取締役	〃	
非常勤	弁護士	〃	
非常勤	医師・国立法人名誉総長	〃	
非常勤	医師・他大学名誉教授	〃	
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京医科大学
設置者名	学校法人東京医科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>■医学部医学科■ シラバスの作成にあたり、各授業科目責任者に対して、WEB上のリンク先への入力作業をID・PWを配布すると同時に依頼している。 入力項目は、「教育到達目標」「授業担当教員氏名・講義内容・キーワード」「授業時間外の学習方法」「評価方法」「課題に対するフィードバック」「オフィスアワー」など多岐にわたる。 作成の工程としては、毎年秋ごろに事務担当者レベルで打合せを行い、1月ごろに授業科目責任者に作成依頼、2月中に入力内容の確認・修正作業を行い、3月末ごろに本学ホームページに掲出し、学生などに周知している。</p> <p>■医学部看護学科■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程 <ol style="list-style-type: none"> ①教務委員会およびカリキュラム委員会での検討を経て次年度のシラバス作成基準・方法等を審議の上、教授会にて決定 ②①に基づきカリキュラム作成方法の手引きを作成 ③各科目責任者による②を踏まえたシラバスの作成 ④シラバス・チェック(学位授与の方針:ディプロマポリシーとの適合性)を経て公表 ・授業計画書の作成・公開時期 前年度末までに準備を開始し、2月末までに集計の上、4月の学生による新年度履修登録までに大学ホームページ上に掲載し、周知している。 	
授業計画書の公表方法	<p>■医学部医学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/med/syllabus.html</p> <p>■医学部看護学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/curriculum/index.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

■医学部医学科■

6年制課程を6段階の第1学年、第2学年、第3学年、第4学年、第5学年、第6学年に分け、それぞれ定められた授業科目数及び単位数により進級を認定している。

ただし、第2学年では第2学年総合試験、第4学年では第4学年共用試験(CBT・OSCE)、第5学年では第5学年総合試験、第6学年では第6学年卒業時OSCEに合格しなければならないと定めている。

6年以上在学した者のうち、卒業に必要な207.5単位以上を取得し、かつ、第6学年総合試験に合格した者には卒業を認定している。

各学年の授業科目における習熟度への評価については、各科目責任者のもと、レポートあるいは試験を実施し、認定を行っている。

評価方法・基準については、シラバスへの掲載を義務づけ、学生に周知している。

■医学部看護学科■

成績評価の方法として、評価方法・基準についてシラバスに掲載し、学生へ周知している。

進級については、第一学年および第二学年に配当された専門基礎科目および専門科目の必修50単位の中、47単位以上を修得していない場合は第三学年への進級は認めないとしている。

成績の評価はS、A、B、C、Dの5段階評価とし、SからCを合格、Dを不合格としている。

卒業の要件として、科目区分ごとに必要単位数を定め、全体としては必修科目106単位と選択科目18単位以上の計124単位以上を修得し、卒業試験に合格しなければならない。また、保健師国家試験受験資格希望者は上記のほかに「コミュニティーヘルスケア」科目13単位を加えた計137単位以上を修得する必要がある。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■医学部医学科■

成績評価区分及び Grade Point (以下 GP) の取り扱いについて、下表の評価区分により各科目の学年成績に対して 1 単位当たりそれぞれ Point を付与する。

評価	評点	評価内容	GP	判定
秀 (S)	100 ~ 90 点	到達目標を十分に達成しており、きわめて優秀な成績を示している。	4	合格
優 (A)	89 ~ 80 点	到達目標を達成しており、優秀な成績を示している。	3	合格
良 (B)	79 ~ 70 点	到達目標の達成は、望ましい水準に達しており、妥当な成績を示している。	2	合格
可 (C)	69 ~ 60 点	到達目標の達成は、望ましい水準には不十分だが、不合格ではない。	1	合格
不可 (D)	59 点以下	不合格	0	不合格

GPA算出方法

$$\text{①当該年度GPA} = \frac{4 \times (\text{S}) \text{ 取得単位数} + 3 \times (\text{A}) \text{ 取得単位数} + 2 \times (\text{B}) \text{ 取得単位数} + 1 \times (\text{C}) \text{ 取得単位数} + 0 \times (\text{D}) \text{ 取得単位数}}{\text{当該年度履修単位数 (「不可 (D)」の単位数を含む。)}}$$

$$\text{②累積GPA} = \frac{4 \times (\text{S}) \text{ 取得単位数} + 3 \times (\text{A}) \text{ 取得単位数} + 2 \times (\text{B}) \text{ 取得単位数} + 1 \times (\text{C}) \text{ 取得単位数} + 0 \times (\text{D}) \text{ 取得単位数}}{\text{総履修単位数 (「不可 (D)」の単位数を含む。)}}$$

※小数点第3位を四捨五入する。

GPA の利用について

学年末成績に GPA を併記するとともに、学年平均 GPA を公開する。また、翌年度における学年担任教授及び相談教員等からの成績不振者学習指導等に関する参考資料とする。

■医学部看護学科■

- ・学則および履修規程において、GPA 制度に関する必要事項を定め、学生の学習到達度を明確化して、成績評価区分およびその取り扱いについて周知している。

(学則第 31 条第 2 項東京医科大学 GPA (Grade Point Average) 実施要項)

1 目的

この要項は、客観的な評価システムとして国際的に認知されている GPA 制度に関する必要な事項を定め、学生の学習到達度を明確化して、学修指導と教育の質の保証に資することを目的とする。

2 成績評価区分及び Grade Point (以下 GP) の取り扱いについて

下表の評価区分により各科目の学年成績に対して 1 単位当たりそれぞれ Point を付与する。

評価	評点	評価内容	GP	判定
S (秀)	100~90 点	到達目標を十分に達成しており、極めて優秀な成績を示している。	4	合格
A (優)	89~80 点	到達目標を達成しており、優秀な成績を示している。	3	合格
B (良)	79~70 点	到達目標の達成は、望ましい水準に達しており、妥当な成績を示している。	2	合格
C (可)	69~60 点	到達目標の達成は、望ましい水準には不十分だが、不合格ではない。	1	合格
D (不可)	59 点以下	不合格	0	不合格

3 GPA算出方法

S の取得単位数 × 4(GP)+A の取得単位数 × 3(GP)+B の取得単位数 × 2(GP)
+C の取得単位数 × 1(GP)+D の取得単位数 × 0(GP)

①当該年度 GPA =

当該年度履修単位数 (D の単位数を含む。)

S の取得単位数 × 4(GP)+A の取得単位数 × 3(GP)+B の取得単位数 × 2(GP)
+C の取得単位数 × 1(GP)+D の取得単位数 × 0(GP)

②累積 GPA =

総履修単位数 (D の単位数を含む。)

※小数第 3 位を四捨五入する。

4 GPAの利用について

- ・ 学年末成績に GPA を併記するとともに、学年平均 GPA を公開する。
- ・ 翌年度における学年担任教授及び相談教員等からの成績不振者学習指導等に関する参考資料とする。
- ・ 退学勧告に使用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

■ 医学部医学科 ■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/med/media/docs/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E5%8C%BB%E7%A7%91%E5%A4%A7%E5%AD%A6GPA%E5%AE%9F%E6%96%BD%E8%A6%81%E9%A0%85%EF%BC%89.pdf>

■ 医学部看護学科 ■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/seika.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

■医学部医学科■

卒業の認定に関する方針として、ディプロマポリシーをホームページに掲載し、広く公表しているところである。内容は下記のとおりである。

《学位授与の方針（ディプロマポリシー）》

学年ごとに設定された進級要件を満たし、卒業までに所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に卒業を許可する。

1. 高い教養と自然科学の知識に立脚し、人体の発生、正常の構造および機能を説明できる。
2. 主要疾患の病態や病因、診断、治療の基本的知識を修得し説明できる。
3. 医師としての実践的な技術や倫理観を修得している。
4. 疾病予防医学、心身リハビリテーションを含めた医療体制を理解している。
5. 疾病の診断、治療にとどまらず、全人的医療の必要性を理解している。
6. 医学倫理、生と死に関わる認識を有し、医師としての正しい判断ができる。
7. 医師としての責任と自覚を有し、能動的かつ協調的に学修できる。
8. チーム医療を推進する上で、多様性を受け入れ、自分の役割を果たし、コミュニケーションを円滑に図ることができる。
9. ICT を活用した学修を実践できる。
10. 国際的に通用する語学力と態度を身につけている。

なお、卒業の要件についてであるが、6年以上在学した者のうち、卒業に必要な207.5単位以上を取得し、かつ、第6学年総合試験に合格した者には卒業を認定することを進級認定細則により定め、遂行している。

学生に対しては、6学年開始時にオリエンテーションを行い、卒業要件を周知している。

■医学部看護学科■

卒業の認定に関する方針として、ディプロマポリシーをホームページに掲載し、広く公表しているところである。内容は下記のとおりである。

《学位授与の方針（ディプロマポリシー）》

4年間の学修を通して、国内外を問わず看護が必要とされるあらゆる場で、どのような状況でも最善の看護を提供できるよう、次の能力を有すると認められる者に学位を授与する。

1. 看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。
2. 看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。
3. 地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。
4. 豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。
5. 看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。
6. グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学力を身につける。

なお、卒業の要件として、科目区分ごとに必要単位数を定め、全体としては必修科目106単位と選択科目18単位以上の計124単位以上を修得し、卒業試験に合格しなければならない。また、保健師国家試験受験資格希望者は上記のほかに「コミュニテ

「ヘルスケア」科目 13 単位を加えた計 137 単位以上を修得する必要がある。
卒業要件単位修得数については入学時オリエンテーションおよび4 学年開始時オリエンテーションにて学生へ直接、周知している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>■ 医学部医学科 ■ https://www.tokyo-med.ac.jp/med/policy.html https://www.tokyo-med.ac.jp/med/seika.html</p> <p>■ 医学部看護学科 ■ https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/policy.html https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/seika.html</p>
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京医科大学
設置者名	学校法人東京医科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/management/index.html
収支計算書又は損益計算書	〃
財産目録	〃
事業報告書	〃
監事による監査報告(書)	〃

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:施設別単年度事業計画 対象年度:平成31年度)
公表方法: https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/media/docs/jigyokeikaku31.pdf
中長期計画(名称:中長期計画による事業計画 対象年度:平成31年度以降)
公表方法: https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/media/docs/jigyokeikaku31.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

<p>公表方法: 2019年3月26日、大学基準協会の大学評価(認証評価)の「適合」判定が取り消され、「不適合」へと変更となったのに伴い、自己点検・評価の公表は現在行っておりません。 下記URL参照 https://www.tokyo-med.ac.jp/news/2019/0326_132400002012.html</p> <p>※2009年および2002年の自己点検・評価は下記のとおりです。 https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/ninsyo.html</p>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.tokyo-med.ac.jp/news/2019/0326_132400002012.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部医学科/看護学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法： ■医学部医学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/med/summary.html ■医学部看護学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/summary.html https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/policy.html 等)</p>
<p>(概要) ■医学部医学科■ 礼節と他者への思いやりを備え、能動的に学ぶ医療人を育成する。基礎医学と臨床医学を融合させて理解し、臓器を超えて全人的に診ることができる医療人を育成する。 ■医学部看護学科■ ≪理念≫ 建学の精神である「自主自学」に基づき、豊かな教養と人間性、柔軟な思考力を具え、自ら考え行動し、社会を切り拓くことのできる人材を育成する。そして看護の知識と実践能力を養い、高い倫理観を持ち、人々の生命や尊厳を守り、社会や看護学の発展に寄与できる看護職を育てる。 ≪到達目標≫ 人間の生命と尊厳を尊重し、高い倫理観に基づいた健全な援助的人間関係を形成できる。 「自立と自律」に価値を置き、科学的根拠に基づく看護判断と看護実践ができる。保健医療、看護、福祉サービスを統合的かつ継続的に提供するために必要なリーダーシップとマネジメントの能力を養う。 人々の生命や健康への脅威、生活の破たんに対して、幅広い視点から問題解決のための方策を考え、行動できる。 生涯にわたって看護専門職として自己研鑽する能力と、看護の価値や専門性を発展させる力を養う。 国際的な視野を持って、世界の人々の安全、健康と福祉に貢献できる能力を養う。 ≪基本方針≫ 幅広い教養と高い倫理観を有する豊かな人間性を育み、人への関心を示し、共感を持って接することのできる態度を養う。また、社会の価値としての看護の意味を深く探求し、自ら考え、行動し、看護を創造・発展させることのできる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： ■医学部医学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/med/policy.html ■医学部看護学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/policy.html)</p>

(概要)

■医学部医学科■

本学では、学年ごとに設定された進級要件を満たし、卒業までに所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に卒業を許可する。

1. 高い教養と自然科学の知識に立脚し、人体の発生、正常の構造および機能を説明できる。
2. 主要疾患の病態や病因、診断、治療の基本的知識を修得し説明できる。
3. 医師としての実践的な技術や倫理観を修得している。
4. 疾病予防医学、心身リハビリテーションを含めた医療体制を理解している。
5. 疾病の診断、治療にとどまらず、全人的医療の必要性を理解している。
6. 医学倫理、生と死に関わる認識を有し、医師としての正しい判断ができる。
7. 医師としての責任と自覚を有し、能動的かつ協調的に学修できる。
8. チーム医療を推進する上で、多様性を受け入れ、自分の役割を果たし、コミュニケーションを円滑に図ることができる。
9. ICT を活用した学修を実践できる。
10. 国際的に通用する語学力と態度を身につけている。

■医学部看護学科■

4年間の学修を通して、国内外を問わず看護が必要とされるあらゆる場で、どのような状況でも最善の看護を提供できるよう、次の能力を有すると認められる者に学位を授与する。

- ①看護学および関連する学問を基盤に、看護の現象をよく理解して概念化・理論化し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。
- ②看護の対象者を全人的に理解し、キュアとケアを融合した看護が実践できる。
- ③地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と責務を果たすことができる。
- ④豊かな人間性を育み、高い倫理観を持って、多様な背景を持つ人々と人間関係を形成できる。
- ⑤看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。
- ⑥グローバルヘルスの課題解決に取り組むことができる豊かな国際感覚や語学力を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：■医学部医学科■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/med/policy.html>

■医学部看護学科■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/policy.html>)

(概要)

■医学部医学科■

本学では、学習成果基盤型教育（アウトカム基盤型教育）を実施している。卒業時に身につけておくべき教育到達目標（アウトカム）として 10 項目の能力が定められ、学年の進行に従いこれらを段階的に学ぶ。

また、臨床実習を早期から取り入れ、高学年では Student Doctor の称号が付与され、チームの一員として国内外における実際の診療の現場に参加して学ぶ。

1. 6年間の教育到達目標を定め、学習成果をきめ細かく形成的に評価する。
2. 質の高い教養教育とともに、基礎医学と臨床医学を連携した教育を実践する。
3. 能動的学修を促すアクティブ・ラーニングを実施する。

4. 入学早期から、現場やシミュレーション実習により多くの医療を体験しながら学ぶ。
5. 臨床実習に十分な期間を確保し、診療参加型臨床実習を実践する。
6. 行動科学・患者学、医療プロフェッショナルリズム、医療倫理、緩和医療など学年を横断して深く学修する。
7. チーム医療教育のため、看護学科や他大学との多職種連携教育を実践する。
8. 知識や技術の評価に加え、コミュニケーション能力や礼儀・礼節も重んじる。
9. ICT を活用した教育を行う。
10. 海外留学の機会も設け、単位として認定する。

■医学部看護学科■

本学看護学科のカリキュラムは、1年次から4年次までの期間で、段階的に知識や技術の習得を積み上げていけるように構成し、「一般教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの科目群から構成されている。カリキュラム構築の考え方は、次のとおりである。

- ①学生が卒業時に習得すべき能力を明確にする。
- ②専門教育・一般教育・教養教育を関連付けて、4年間を通して総合的に展開する。
- ③様々な問題や課題を考え、探求し、解決していくために必要な学問知・技法知・実践知の習得を目指す教養教育を充実する。
- ④知識や技術を実践状況に適用できる力を養うため、講義、状況を再現した演習、および実習を効果的に組み合わせる。
- ⑤専門基礎科目や専門科目であっても、学生の興味・関心によって学べるように選択肢を広げる。
- ⑥チーム医療の実践力を養うために多職種連携教育を充実する。
- ⑦地域におけるケアの志向性と看護実践力を養うための科目を設定する。
- ⑧グローバルヘルスの課題を理解し、国際的視野で取り組む力を養うための科目を設定する。
- ⑨防災の意識を高め、災害時の支援行動がとれるよう防災教育や災害看護に関する科目を設定する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：■医学部医学科■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/med/policy.html>

■医学部看護学科■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/policy.html>

(概要)

■医学部医学科■

本学の建学の精神は「自主自学」であり、自主性を重んじた医学教育を実践している。校是として「正義・友愛・奉仕」を掲げ、患者とともに歩むことのできる医療人を一世紀にわたり育成してきた。

本学では、この建学の精神、校是およびミッションを理解し、多様性、国際性、人間性を兼ね備えた医療人となる高い志を持った、次のような人を求めている。

1. 十分な基礎学力をもつ人
2. 自己学修意欲が旺盛である人
3. 自ら問題を発見し、解決する積極性のある人
4. 他者と礼節を重んじながら、積極的に関わることができる人

5. 命あるもの（動・植物）に慈愛をもって接することができる人
6. 自らの使命を理解し、求められている役割を自ら果たそうとする人
7. 自らの意見を他者に伝えるとともに、他者の意見を理解できる協調性と柔軟性をもつ人
8. ICT(情報通信技術)の基本を理解している人
9. 医療を通して国際的視野で活動する志のある人

■医学部看護学科■

自主自学の精神に基づき、自律して学ぶ意欲を持つ人を受け入れる。

- ①十分な基礎学力を有し、主体的に学ぶ姿勢と積極的に問題解決しようとする人
- ②看護への強い関心を有し、社会貢献への意欲が高い人
- ③豊かな感性を備え、他者と関係を育むことをいとわない人
- ④看護を通じて国際的視野で活躍する志のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

■医学部医学科■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/organization.html>

■医学部看護学科■

<https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
医学部	—	122人	98人	153人	422人	35人	830人
医学総合研究所	—	4人	2人	4人	2人	1人	13人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		576人					576人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/media/docs/gakui.pdf https://www.tokyo-med.ac.jp/med/media/docs/gyoseki.pdf					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医学科	120人	124人	103.3%	720人	740人	102.8%	0人	0人
看護学科	80人	92人	115.0%	320人	378人	118.1%	人	人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医学科	123人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	123人 (100%)
看護学科	92人 (100%)	1人 (1.1%)	90人 (97.8%)	1人 (1.1%)
合計	215人 (100%)	1人 (1.1%)	90人 (97.8%)	124人 (101.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
医学部医学科	118人 (100%)	100人 (84.7%)	16人 (13.6%)	2人 (1.7%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>■医学部医学科■</p> <p>1. 作成の流れ</p> <p>シラバスの作成にあたり、各授業科目責任者に対して、WEB上のリンク先への入力作業をID・PWを配布すると同時に依頼している。</p> <p>入力項目は、「教育到達目標」「授業担当教員氏名・講義内容・キーワード」「授業時間外の学習方法」「評価方法」「課題に対するフィードバック」「オフィスアワー」など多岐にわたる。</p> <p>作成の工程としては、毎年秋ごろに事務担当者レベルで打合せを行い、1月ごろに授業科目責任者に作成依頼、2月中に入力内容の確認・修正作業を行い、3月末ごろに本学ホームページに掲出し、学生などに周知している。</p> <p>2. 実際の内容</p> <p>下記のURLより確認できる。</p> <p>https://www.tokyo-med.ac.jp/med/syllabus.html</p> <p>■医学部看護学科■</p> <p>(様式第2号の3「(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」の再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書（シラバス）の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> ①教務委員会およびカリキュラム委員会での検討を経て次年度のシラバス作成基準・方法等を審議の上、決定 ②カリキュラム作成方法のてびきを整備 ③各科目責任者による②を踏まえたシラバスの作成 ④シラバス・チェック（学位授与の方針：ディプロマポリシーとの適合性） ・授業計画書の作成・公開時期 <p>前年度末までに準備を開始し、2月末までに集計の上、4月の学生による新年度履修登録までに学内グループウェア上に掲載</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

■医学部医学科■

1. 学修の成果に係る評価について

6年制課程を6段階の第1学年、第2学年、第3学年、第4学年、第5学年、第6学年に分け、それぞれ定められた授業科目数及び単位数により進級を認定している。ただし、第2学年では第2学年総合試験、第4学年では第4学年共用試験(CBT・OSCE)、第5学年では第5学年総合試験、第6学年では第6学年卒業時OSCEに合格しなければならないと定めている。

6年以上在学した者のうち、卒業に必要な207.5単位以上を取得し、かつ、第6学年総合試験に合格した者には卒業を認定している。

各学年の授業科目における習熟度への評価については、各科目責任者のもと、レポートあるいは試験を実施し、認定を行っている。

評価方法・基準については、シラバスへの掲載を義務づけ、学生に周知している。

2. 卒業又は修了の認定に当たっての基準

卒業の認定に関する方針として、ディプロマポリシーをホームページに掲載し、広く公表しているところである。内容は下記のとおりである。

《学位授与の方針（ディプロマポリシー）》

学年ごとに設定された進級要件を満たし、卒業までに所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に卒業を許可する。

1. 高い教養と自然科学の知識に立脚し、人体の発生、正常の構造および機能を説明できる。
2. 主要疾患の病態や病因、診断、治療の基本的知識を修得し説明できる。
3. 医師としての実践的な技術や倫理観を修得している。
4. 疾病予防医学、心身リハビリテーションを含めた医療体制を理解している。
5. 疾病の診断、治療にとどまらず、全人的医療の必要性を理解している。
6. 医学倫理、生と死に関わる認識を有し、医師としての正しい判断ができる。
7. 医師としての責任と自覚を有し、能動的かつ協調的に学修できる。
8. チーム医療を推進する上で、多様性を受け入れ、自分の役割を果たし、コミュニケーションを円滑に図ることができる。
9. ICTを活用した学修を実践できる。
10. 国際的に通用する語学力と態度を身につけている。

なお、卒業の要件についてであるが、6年以上在学した者のうち、卒業に必要な207.5単位以上を取得し、かつ、第6学年総合試験に合格した者には卒業を認定することを進級認定細則により定め、遂行している。

学生に対しては、6学年開始時にオリエンテーションを行い、卒業要件を周知している。

■医学部看護学科■

(様式第2号の3「(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」の再掲)

成績評価の方法として、評価方法・基準についてシラバスに掲載し、学生へ周知している。

進級については、第一学年および第二学年に配当された専門基礎科目および専門科目の必修50単位の中、47単位以上を修得していない場合は第三学年への進級は認めないとしている。成績の評価はS、A、B、C、Dの5段階評価とし、SからCを合格、Dを不合格としている。卒業の要件として、科目区分ごとに必要単位数を定め、全体として

は必修科目 106 単位と選択科目 18 単位以上の計 124 単位以上を修得し、卒業試験に合格しなければならない。また、保健師国家試験受験資格希望者は上記のほかに「コミュニティーヘルスケア」科目 13 単位を加えた計 137 単位以上を修得する必要がある。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	207.5 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	1 学年あたり 45 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.tokyo-med.ac.jp/univ/media/docs/facilities.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
医学部	医学科	2,500,000 円	1,000,000 円	3,900,000 円	入学時
	医学科	2,500,000 円	0 円	1,900,000 円	2 年次以降
医学部	看護学科	1,050,000 円	300,000 円	550,000 円	その他の内訳 実習費：250,000 円 施設設備費：300,000 円
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要)</p> <p>■医学部医学科■ 相談教員制度を設けており、担当教員が受け持つ学生に対して、人生の先輩として学生の学習面や学生生活などの相談に応じながら助言を与えている。また、学年ごとに担任教授を配し、学年全体、あるいは個々の学生への学習指導や生活面での相談に応じている。</p> <p>■医学部看護学科■ 看護学科 3 つの特徴</p> <p>①国内最高レベルのシミュレーション教育 学内演習の場としてシミュレーションルームを常備している。実際の看護場面を再現した状況で演習を行うことで、看護を実践するための思考プロセスを訓練し、さまざまな事態に対応できる応用力を養うことができる。</p> <p>②ICT を活用した教育環境の充実 入学時に学生全員に iPad を無料で配布している。41 科目のテキストが入ったアプリにより、いつでも予習復習が可能。授業の事前課題や資料、教材などを閲覧・ダウンロードできる「e-ラーニング」の活用など、ICT を活用した教育環境を充実させている。グローバル&ローカルな視座で看護を考える</p> <p>③国や人種や文化の違いを超え、世界中の人々の健康と生活を支援できる基礎的な力を養うため、語学教育の充実、海外大学との交流やフィールドワークなどの教育に力を入れている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要)</p> <p>■医学部医学科■ 相談教員制度を設けており、担当教員が受け持つ学生からの進路相談などの相談に応じながら助言を与えている。また、学年ごとに担任教授を配し、学年全体、あるいは個々の学生に対して進路に関する相談に応じている。</p> <p>■医学部看護学科■ ①担任制度 学修支援、学生生活支援、キャリア支援などに関して、個別に相談、指導、助言ができるよう、学生 15 人程度に 1 人の専任教員を配置している。 担任制は、1 年次から 3 年次まで実施し、原則として同じ担任教員が、学生の</p>

<p>個別指導にあたる。また、4年次にはゼミ担当教員がこの役割を担う。</p> <p>②キャリア教育・支援委員会 学生の進路指導・支援に関する委員会を設置し、月一回の会議を通して学生の支援について検討・よりよい指導を実践している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要)</p> <p>■医学部医学科■ メンタルサポートとして、臨床心理士を配して学生相談室を開設している。学生相談室は学生のほか、そのご家族の相談も受けている。また、不眠や身体的不調、気分の落ち込みや不安感が強いような場合には、本学大学病院メンタルヘルス科にてサポートする体制を構築している。</p> <p>■医学部看護学科■ ①オフィスアワー制度 オフィスアワーとは、教員が学生のために研究室を解放している時間帯であり、講義内容や学修上の質問等、学生生活の中で起こるさまざまな悩みについて、教員が相談に応じている。なお、オフィスアワーの時間帯は、各科目のシラバスに掲載している。</p> <p>②学生相談室 臨床心理士の資格を持った専門のカウンセラーが相談に応じている。1回の相談時間は30分～50分となっており、基本的に予約制をとっている。相談事項・相談内容などの秘密は、厳重に守られている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：■医学部医学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/med/media/docs/gyoseki.pdf https://www.tokyo-med.ac.jp/research/</p> <p>■医学部看護学科■ https://www.tokyo-med.ac.jp/nursing/</p>
--